

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	21H05054	研究期間	令和3(2021)年度 ～令和7(2025)年度
研究課題名	多元自動通訳システムと評価法に関する研究とその応用展開	研究代表者 (所属・職) (令和5年3月現在)	中村 哲 (奈良先端科学技術大学院大学・ 先端科学技術研究科・教授)

【令和5(2023)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(研究の概要)		
<p>本研究では、同時通訳を、通訳者の視点、情報学研究からの視点及び利用者の視点の3方向から多面的に捉え、人間の通訳者の処理方法、機械での実現可能性、人間による通訳内容の認知や理解を総合的に解明しようとするものである。人間の同時通訳の理解と機械による実現を目指して、三つの課題（多元同時通訳方式、通訳品質の評価法とリアルタイム評価技術、コーパス構築とシステム）を設定し、開発を進める。</p>		
(意見等)		
<p>同時通訳という社会的に重要なテーマについて、通訳者の視点及び利用者の視点での知見を加味しながら、工学的に完成度が高いシステムの実現に向けて、着実に研究を進めている。多元同時通訳方式（課題1）に関しては、フォーカスに注目したパラ言語音声翻訳、低遅延の漸進的通訳方式の高度化、通訳品質評価（課題2）に関しては、訳出順制御の重要性の発見、通訳評価規準の開発、コーパス構築（課題3）に関しては、340時間の日英・英日の同時通訳コーパスのアライメント、アノテーション、分析などで成果を上げている。これらの成果は、評価の高い学術雑誌・国際会議で発表されており、研究は順調に進展していると評価する。</p>		